

元宵節（げんしょうせつ）

ピンチヒッター・イマイの中国通信

中国の工場が春節（お正月休み）の時期と言うことで、ホットなニュースが少ないので、今回は仕事に関わりの深い中国の習慣や風習について少しご紹介したいと思います。

元宵節（げんしょうせつ）は、日本で言うところの1月15日、旧暦の小正月（1月15日）のことです。今年は3月2日が元宵節になります。最近、春節はテレビ等に大きく取り上げられており知っておられる方も多いと思いますが、中国では地方から出稼ぎに出てきている方もまだまだ多く、簡単に家族に会えない人たち、年に一度しか家族に会えない人たちが、正月休みをしっかりとって元宵節が終わってから働きに出ると言った流れも残っているようです。

↓下の写真は、元宵節の街中の雰囲気です。灯籠を飾ったりするのが習わしのようです。





中国では、元宵節に灯籠を飾ったり『湯圓』を食べたりする習慣があります。

← 湯圓とは「もち米」を原料とした団子で、中には様々な具が入れられます。甘いものとしては砂糖、胡桃、ゴマ、小豆

餡、氷砂糖などが、塩辛いものとしては肉や野菜で作られた具が入れられます。

鍋で茹でる際、湯の中で団子が踊る姿を天に輝く満月のように見える様から、また発音が家庭団圓（団らん円満の意味）と似ていることから「湯圓」という漢字が使用される縁起物でもあります。

いま時期の中国の街の様子は、故郷が近場の人は早めに仕事を始めている人もいますが、田舎などは、学校自体も元宵節が終わってから始まる場所も有るそうです。福建省の都会では、すでに学校が始まっているそうですから、中国も段々と昔の風習が薄れてきている面はあるのかもしれませんが、今年も春節を利用して多くの中国人が海外旅行に出かけたみたいですね。

中国庶民の「年に一度の大イベント」が元宵節で締めくくられる感覚かも知れません。多くの方が、春節を海外で過ごしても、元宵節には戻って家族や親しい友人と食事に出掛けたりするようです。台湾なども同じ様に元宵節を祝うそうですので、一度この時期に中華圏に旅行に行かれてみても面白いかもしれません。



さて、石材工場はと言いますと、比較的戻りが早い工場でもまだまだ職人さんが帰ってきておらず、大口徑で石を少し切出したところです。3月10日出荷は、春節前に受けた急ぎの注文でキャパオーバーです。まだ3月が始まったばかりですが、既に3月24日積みの荷物で受けて欲しと依頼を受けています。今年の石材業界の旧正月明けの見通しは、3月17日出荷はフル稼働フル生産、落ち着いて来るのは3月24日以降の出荷分になりそうな雰囲気です。

わたしも春節が明けたので、そろそろ目を覚まして頑張らないと・・・

今年もよろしくお願ひします。

2018/03/01 今井